

帰ってきたファールコレクション

あの「人間失格」は
ここ埼玉の地で書かれていた

図書館と県民のつどい 埼玉 2009

この手記を書き綴った狂人を、私は、直接には知らぬ。けれど、この手記に出て来る京橋のスタンド・バアのマダム……（きり）物を、私はちよつと知っているのである。小……顔色の……な、眼が細く吊り上……たほうがいくらいの固い感じのひ……あつて……ように思われるが、私が、その……あつた……の「軍部」がそろそろ露呈……あつた……わけである。私……葉県船橋……然る……物でも仕入れて私の家の者たち……泥海に臨んだかなり大きいま……なわからないのである。寒い上に、リュック……押した。

「あなたは、しかし、かわらない」
そのマダムに見覚えがあり、たずねてみ……出してくれた様子で、互いに大袈裟に驚き、……もせぬのに、いかにも自慢らしく語り合い、



……かほ……た……日本……いる……とい……き人

出展者
跡見学園女子大学
国立女性教育会館
埼玉大学
城西大学
女子栄養大学
聖学院大学
文教大学
立教大学
立正大学

特別出展 埼玉大学 旧制浦高記念資料室

～大学図書館のお宝お見せします～

太宰治からファールまで

2009年11月28日(土)10時～16時 浦和コミュニティセンター 浦和パルコ/コムナーレ10階

問い合わせ：埼玉県図書館協会事務局(埼玉県立浦和図書館内) TEL:048-829-2821 FAX:048-829-2979

『人間失格』の読者たち

立教大学文学部教授・図書館長 石川 巧

放蕩生活に溺れたあげく、咯血、モルヒネ中毒、精神病棟への収容という転落コースをたどる主人公・大庭葉蔵が残した三つの手記に「はしがき」「あとがき」を加えて構成される「人間失格」（「展望」昭23・6～8、執筆は同年3～5月）は、第二回、第三回分の雑誌掲載が死後（昭23・6・13、山崎富栄と玉川上水に入水自殺）だったため、太宰治が自分の人生を回顧的に綴った「遺書」のように読まれる傾向があり、教育の現場からは遠ざけられてきた。

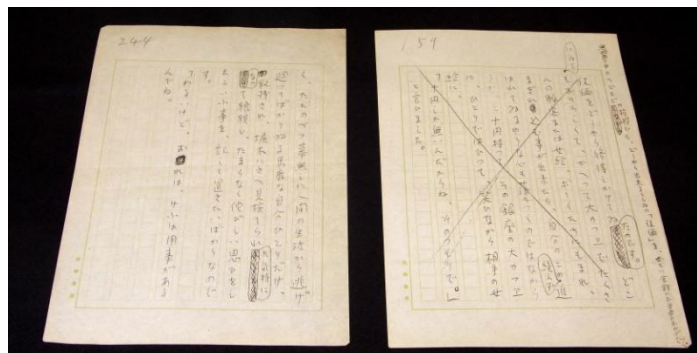
だが、長きにわたって人気を支えてきたのは中・高校生の読者たちであり、彼らの多様な読み方がこの作品の奥行きをつくりだしてきたともいえる。たとえば、昭和三十年代の読者は、人間のエゴイズムに傷つく主人公・葉蔵の純真さを擁護し、むしろ、彼を「虚偽」へと駆り立てる社会への憤りを語るようなヒューマニティ溢れる言葉を口にする。昭和四十年代に入ると主人公と読者との距離が著しく接近し、本心を欺きながら「道化」のように振る舞う葉蔵は私自身だという解釈が登場する。世間や他者との関係性のなかで生かされている「私」は贗物であり、本物の「私」は誰にも見られないようにひた隠しにされているのではないだろうかという自分自身への疑惑が、思春期にある中・高校生たちの心をくすぐるのである。なかには、葉蔵の生き方に高度経済成長期の世相に逆行する「下降志向」をみて彼の孤高性を称える言説も出てくるが、それも意味では読者たちが抱える現実の悩みや苦しみを反映したものであろう。

昭和四十年代後半になると、葉蔵の弱さ、優柔不断さを断罪して「ぼくたちは人間失格を読むことで、死へではなく生へ、力強い生へ向かわなくてはならない」と宣言するような文章が量産されてくる。いわゆる反面教師としての主人公像が確立されるのである。

また、その後、『人間失格』を賛否の形式で捉えることに飽きた読者たちは、作品の内容よりもその語り口に関心を持つようになり、「私」が「私」自身を語るという行為に含まれるかわしさを、他者を了解することの困難さ、ニヒリズムへの陶醉などを問題化しはじめる。『人間失格』は人間を了解不能な存在として描いているからこそ名作なのだ、というわけである。



『人間失格』の背後にはいつも太宰治がいた。そして物語のなかに現実よりも人間らしい人間を見つけた中・高校生たちは、ときに陶醉しときに反発しながら彼の文学にたらしこまれていった。この作品がいまもなお多くの読者を惹きつける理由は、好悪の振幅がとめどなく拡張していくところにあるのではないだろうか。



太宰治『人間失格』の草稿

「聖書と日本文化展」（1999年9月29日～10月8日）を立教で開催したとき、太宰治が書いた聖句の書を出品していただいた御縁で、その所蔵者であった故大高正博氏の御家族から、太宰治の原稿二枚（二百字詰）が本学に寄贈された。

二枚の原稿は、いずれも筑摩書房の名入り原稿用紙にペン書きで記載された『人間失格』（1948年『展望』に発表ならびに刊行、筑摩書房）の草稿であることが判明した。また1998年に公開され話題となった大量の草稿にも含まれていないものである（『太宰治全集』13、1999、筑摩書房）。

「159」の番号が付された一枚は「第二の手記」の部分の草稿であるが、全面×印で消されているので草稿の草稿かもしれない。初出および決定稿と比較すると、「技倆を」の後に、「れいの運動で走り廻ったおかげ？または、女の？ または、酒？ けれども、おもに金銭の不自由のおかげで」の言葉のない点が大きな相違である。

「244」の番号が付された他の一枚は「第三の手記」の部分の草稿であり、やはり同じような比較をすると、「たまらなく侘しい思ひ」の前に「おしるこのはげた塗箸をあつかひながら」がない。そのほか、いくつか表現を改めている。

これらから、『人間失格』の完成稿を作成するにあたり、太宰がレトリックに最後までこまかく神経を使っていた様子がうかがわれる。太宰はこの執筆後まもなく世を去る。

（元コミュニティ福祉学部教授 鈴木範久）

無我夢中のへいどまの挨拶でも、どうやら出来るくらゐの「使働」を、おまに金銭の不自由のあがいで

にぬて

使働をどうやら修得しかけて
 もおそろしくて、かへつて大カッエでたくさ
 んの酔宴まは女給、ボーイたちにもまれ、
 まぎれどむ事が出来たら、自分のこの道
 はれてゐるやうな心も落ちつくのではなから
 うか、と十田持つて、その銀座の大カッエ
 に、ひとりではひつて、笑ひながら相手の女
 十田しか無一人だからね、そのつもりで
 と言ひました。

たのむす。

絶えず

く、ただのぶつ幕無しに人間の生活から逃げ

返ってばかりぬる馬鹿な自分ひとりだけ、

取残され、堀木にさへ見捨てられ

なつて狼狽し、たまたまなく他がし、た気持に思ふをし

たといふ事を、記して置きたはかりなので

す。

了わるいけど、おれは、けふは用事がある

んでね。

冷たい人なのに好きになってしまう

精神科医・立教大学現代心理学部教授 香山リカ

太宰治を「境界性パーソナリティ障害」と診断する論文を書いた精神科医・米倉育男は、彼の「道化」と呼ばれる、はしゃぎっぷりや悪ふざけは、「淋しさ、頼りなさ、空虚感などが入りまじった抑うつ的な感情を防衛するもの」だとしている。

では、なぜ太宰は、そんなことをしなければならぬほど寂しかったのだろうか。その問いに対して米倉は、「太宰の場合は、母からというよりは、長い間『生母』と考えていた叔母から見捨てられるのではないか、という分離不安に基づく防衛として考えることができよう」と分析している。・・・(「日本病跡学雑誌」19号1980)

「自分は特にすぐれた人間」と万能感を持ったかと思うと、次の瞬間には「自分は最悪の人間」と落ち込み、安定したペースで仕事をし続ける友人などに嫉妬の情を覚える。自嘲的に見せつつ、太宰が実は芥川賞などの社会的な評価に固執し、師であり賞の選考委員でもあった佐藤春夫に受賞を乞う手紙まで出したことも知られている。

こうした話をすると、とくに就職活動に勤しんでいる学年の男子学生たちは、大きくうなずく。彼らもまた、自信喪失や自己卑下と優越感や自負心とのはざまを揺れながら悩んでいるのだろう。

さて米倉育男は、その後太宰が持つ「自己愛性パーソナリティ者」としての一面にも注目する。米倉は、自己愛性パーソナリティ障害のなかでも「操縦型人格」に相当するのではないかと述べる。論文からその定義を引用しよう。「この型の人々は、自己中心的で自らの自己愛を満足させる手段としてのみ他人と付き合い、他人を思いどおりに操ろうとする。それは、決して相手への深い思いやりがあつてのことではなく、他人が自分に好意をもち、思いどおりになることで自己愛を満たそうとするものである。その人間関係は表面的で、他人への軽蔑感を抱いている。しかし、一見親切そうで温かみがあり、人の気を引いたり人使いがうまい。・・・」

女子学生たちに再度『『人間失格』の主人公、あるいは太宰自身がなぜ女性をひきつけたかと質問してみる。すると、いろいろな答えが返ってくる。・・・多様な意見があるが、共通しているのは「冷たい人、決して幸せになれない人だとわかっているけど、こういう男性を好きになってしまう女性の気持ちはよくわかる」という点だ。・・・男子学生はポカンとした顔で見ているが、中にひとりふたり、うつむきながら含み笑いをしているように見える人もいる。この人たちこそ

現代版・太宰治なのだろうか、と息子ほど年の離れた彼らにドキリとさせられることもある。

(※『女が読む太宰治』筑摩書房2009より抜粋、転載させていただきました。立教大学図書館)



『昭和十年前後の太宰治』（ひつじ書房 2009）より

信州大学人文学部講師 松本和也（立教大学文学研究科卒）

太宰治は、しばしば現役作家であるといわれる。・・・例えば『人間失格』をはじめとする文庫本は、今なおよく売れているというし、若手を中心に現代作家の何人もが太宰治に影響を受けたと公言してはばからない。あるいは、中学・高校の国語教科書をひらけば、そこには「走れメロス」、「富嶽百景」、「津軽」といった太宰治の作品が教材として収められてもいる。・・・

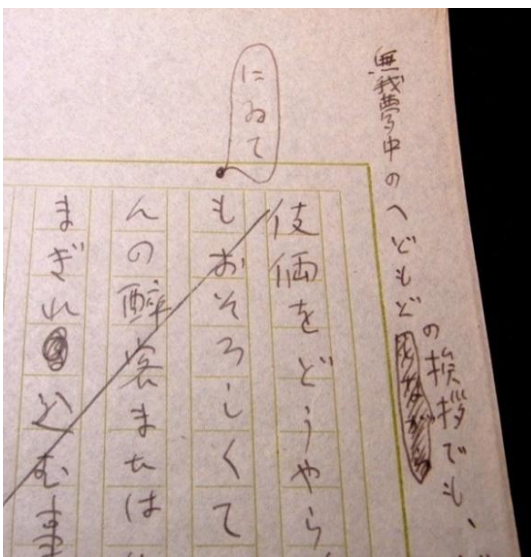
よく知られたいい方をあげておこなれば、太宰治は“青春のはしか”であるという。青年期には夢中になって太宰治の作品を読む時期があるが、大人になれば自然とそういう時期は去る、その意味で太宰治への心酔は一時的なはしかのようなものだ、というのがそれである。・・・

しかし、ここにも死角がある。確かに、人には誰しも青年期があり、それぞれの青春を生きるだろう。・・・とはいえ、それはいつの世でも、そこに太宰治なる作家がいて、その作品があれば成立したことだろうか。本書にいう死角とは、端的にはこのことに関わる歴史的な条件こそを指す。つまり、太宰治が“青年の文学”として読み継がれているのが一つの事実であるように、太宰治とは、ある歴史的時期に、ある歴史的文脈においてはじめて“青春の文学”とみなされていたこともまた確かなはずなのだ。・・・当時の、そして現在流通している太宰治とは、他のいつでもない昭和 10 年前後という歴史的条件を抜きにしては考えられない、というのが本書の基本的な立場である。・・・

社会学者の山本明は<<太宰の死後、今日までの読者>>について、生前の読者との違いにふれて次のように述べている。

「第一に、現在の読者は、太宰の生涯と太宰の作品を混同し、あるいは同一線上でとらえる人が大部分である。戦前の読者は太宰個人について、ほとんど何も知らない人ばかりであった。作品は自立して読まれていた。今日は太宰の生涯をたどりながら読む人が多い。作品と作者との関係は、いちど整理しなおす必要がある。」（『太宰神話の過去と現在』『国文学』1982.5）

太宰治と同じく第一回芥川賞候補となりながら落選した高見順などをその典型として、昭和 10 年前後の青年作家とは、それぞれの仕方ではあるが、左翼運動にコミットし、プロレタリア文学を書くことで主体形成してきた世代なのだ。・・・



本書で注目していきたいのは、太宰治を“青年の旗手”へとおしあげ、そして“青年の旗手”であるがゆえに、同時代メディアから退場を余儀なくされていく、他ならぬ昭和十年前後の動向である。

（※上記著書より、引用・抜粋させていただきました。立教大学図書館）

太宰治年譜

1909 (明治 42 年)	1 歳	6 月 19 日青森県北津軽郡金木村に、十子六男として生まれる。本名は津島修治。津島家は県内多額納税者 4 位の新興の商人地主。母の夕子(たね)が病弱のため、生後まもなく乳母をつけられ、叔母キエに育てられた。使用人を加えると 30 人の大家族だった。
1911(明 44)	2	夜は叔母キエと寝所を共にし、昼は年季奉公のタケ(13 歳)と過ごす。
1912(明 45)	3	父、源右衛門が衆議院議員選挙に当選。
1916(大 5)	7	金木第一尋常小学校に入学。小学校時代を通じて首席だった。
1922(大 11)	13	明治高等小学校に入学、1 年間通学。父、源右衛門が貴族院議員に当選。
1923(大 12)	14	父源右衛門が 52 歳で死去。4 月青森中学校に入学。在学中、級長をつとめる。
1925(大 14)	16	青森中学校の校友会誌に最初の創作「最後の太閤」を発表。長兄文治、町長となる。
1927(昭 2)	18	弘前高等学校に入学。7 月芥川の自殺に衝撃を受ける。学業を放棄して、義太夫を習い、花柳界に出入りし、芸妓小山初代と馴染みになる。
1929(昭 4)	20	急激に左翼思想的傾向を示すようになる。期末試験前夜にカルモチンを嚥下、第一回の自殺未遂事件を起こす。
1930(昭 5)	21	東京帝国大学仏文科に入学。5 月井伏鱒二に会い、以後師事する。非合法運動にシンパとして加わる。初代が出奔し上京。11 月カフェ女給の田辺あつみと心中をはかるが太宰のみ助かる。自殺幇助罪に問われるが起訴猶予。12 月初代と仮祝言を挙げる。
1931(昭 6)	22	初代と五反田の借家に同居する。資金カンパ、アジト提供など続ける。
1932(昭 7)	23	青森警察署の取り調べを受け、非合法活動と絶縁を誓約して帰京する。
1933(昭 8)	24	杉並区天沼に転居。「列車」を太宰治の筆名で発表。「魚服記」を「海豹」に発表。
1935(昭 10)	26	3 月在学 5 年目の東大を落第、都新聞入社試験にも失敗。鎌倉山中で縊死をはかる。4 月入院し鎮痛剤パピナールが習慣化する。5 月「道化の華」を発表、8 月「逆行」で第一回芥川賞候補となるが、落選。佐藤春夫に師事する。10 月「ダス・ゲマイネ」を「文芸春秋」に発表。川端康成の芥川賞選評への抗議を「文芸通信」に発表する。
1936(昭 11)	27	「めくら草紙」を「新潮」に発表。2 月パピナール中毒で入院。6 月「晩年」を刊行。井伏鱒二らのすすめで武蔵野病院に入院、中毒を根治して退院。
1937(昭 12)	28	「二十世紀旗手」を発表。初代の過ちを告げられ衝撃を受け、心中未遂事件を起こす。
1939(昭 14)	30	1 月杉並区天沼で、井伏夫妻の媒酌により石原美知子と結婚、甲府市御崎町に新居。「富嶽百景」を「文体」に、3 月「黄金風景」を「国民新聞」に、4 月「女生徒」を「文学界」に発表。9 月、東京府下三鷹村下連雀に転居。「おしやれ童子」を「婦人画報」に発表。
1940(昭 15)	31	1 月「俗天使」を「新潮」に、2 月「駈け込み訴へ」を「中央公論」に発表。5 月「走れメロス」を「新潮」に、7 月「乞食学生」を「若草」に、11 月「きりぎりす」を「新潮」に発表。この年は原稿依頼も多く、安定した生活の中で多くの佳作を発表した。
1942(昭 17)	33	しばしば点呼召集され軍事教練を受ける。10 月「花火」が検閲により全文削除を命じられる。母危篤となり帰郷、12 月母死去。
1944(昭 19)	35	神奈川県下曾我村の太田静子を訪問。7 月初代死去。8 月長男誕生。
1945(昭 20)	36	妻子を甲府の石原家に疎開させる。7 月空襲で全焼。妻子とともに金木の生家に帰る。
1946(昭 21)	37	長兄が衆議院議員となる。6 月「パンドラの匣」刊行。11 月三鷹の旧居に帰る。
1947(昭 22)	38	2 月太田静子を訪ね日記を借りて静岡県三津浜で「斜陽」を起稿する。3 月「ヴィヨンの妻」を「展望」に発表、三鷹駅前の屋台で山崎富栄と知り合う。次女生まれる。6 月末三鷹で「斜陽」完成、8 月から「新潮」に連載。9 月職場を山崎富栄の部屋に移す。11 月太田静子に女兒誕生。12 月「斜陽」が刊行、ベストセラーとなる。
1948(昭 23)	39	1 月「如是我聞」を「新潮」に連載。3 月熱海で『人間失格』の執筆を始める。しばしば咯血。5 月「桜桃」を「世界」に発表、大宮市の小野沢方で『人間失格』を脱稿して帰京、『グッド・バイ』の執筆を始める。6 月「人間失格」第 1 回を「展望」に発表。12 日大宮の宇治病院と小野沢氏を訪ねる。13 日夜半から翌朝の間に山崎富栄と玉川浄水に入水。6 月 19 日早朝に遺体が発見される。21 日告別式、三鷹の黄檗宗禅林寺に葬られる。

立教大学図書館「太宰治『人間失格』自筆草稿・初版複製本」展示 於：「図書館と県民のつどい埼玉 2009」11月27日

<展示ケース>

1. 太宰治『人間失格』草稿 159p, 160p (筑摩書房 200字詰め原稿用紙2枚)
(1999年立教大学に寄贈されたもの、未公表資料)
2. 直筆で読む「人間失格」 / 太宰治著. -- 集英社, 2008.11 (集英社新書 ; ヴィジュアル版).

<テーブル展示>

1. 人間失格 / 太宰治著. -- 日本近代文学館, 1992.6. (名著初版本複製太宰治文学館 / 日本近代文学館編集)
2. 回想の太宰治 / 津島美知子著. -- 人文書院, 1978.5
3. 愛は死と共に : 山崎富栄の手記 / 山崎富栄著. -- 石狩書房, 1948
4. 太宰治 : 小説 / 太田静子著. -- ハマ書房, 1948.11
5. 太宰治『女性 : 創作集』1942年初版本 (※跡見女子大学図書館所蔵資料)
6. 『展望』1948年6月号 太宰治「人間失格」
7. 『新潮』1998年7月号 「没後50年 太宰治アルバム (津島家家蔵資料より)」
8. 日本近代文学館編『複製近代文学手稿100選』(解説・解題 : 紅野敏郎) 二玄社 1993

<日本近代文学館『名著初版本複製太宰治文学館』1992>

1. 細胞文芸 創刊号 (昭和3年5月発行)
2. 虚構の彷徨 ; ダス・グマイネ / 太宰治著
3. 女生徒 : 短篇集 / 太宰治著
4. 愛と美について : 小説集 / 太宰治著
5. 女の決闘 / 太宰治著
6. 皮膚と心 : 小説集 / 太宰治著
7. 東京八景 / 太宰治著
8. 新ハムレット / 太宰治著
9. 千代女 : 太宰治創作短篇 / 太宰治著
10. 信天翁 : 太宰治文藻集 / 太宰治著
11. 風の便り : 小説集 / 太宰治著
12. 女性 : 創作集 / 太宰治著
13. 正義と微笑 / 太宰治著
14. 富嶽百景 / 太宰治著
15. 右大臣實朝 / 太宰治著
16. 佳日 / 太宰治著
17. 津軽 / 太宰治著
18. お伽草紙 / 太宰治著
19. 新釋諸國噺 / 太宰治著
20. 薄明 / 太宰治著
21. バンドラの匣 / 太宰治著
22. 斜陽 / 太宰治著
23. ヴィヨンの妻 / 太宰治
24. 冬の花火 / 太宰治著
25. 櫻桃 / 太宰治著
26. 如是我聞 / 太宰治著
27. 地主一代 : 未発表作品集 / 太宰治著
28. 名著初版本複製太宰治文学館 解説書および付録 / 日本近代文学館篇集 ; 解説書

<関係資料展示>

1. 石川巧「太宰治の読まれ方―読書感想文の世界に生き延びる『人間失格』」
(『新世紀 太宰治』斎藤理生・松本和也編 双文社出版 2009)
2. 香山リカ「冷たい人なのに、好きになってしまう―人間失格ほか」
(『女が読む太宰治』ちくまプリマー新書 109 筑摩書房 2009)
3. 松本和也『昭和十年前後の太宰治：「青年」・メディア・テキスト』ひつじ書房, 2009.3
4. 東郷克美『太宰治の手紙』大修館書店, 2009.7
5. 安藤宏『太宰治：展望』ぎょうせい, 2009.6
6. 太宰治：100年目の「グッド・バイ」：総特集. 河出書房新社, 2009.5(文藝；別冊)
7. 『別冊太陽 日本のこころ 159：太宰治』平凡社 2009.7
8. 志村有弘, 渡部芳紀編『太宰治大事典』勉誠出版, 2005.1
9. 田中良彦『太宰治と「聖書知識」』新版 朝文社, 2004.6.
10. 太宰治『太宰治滑稽小説集』みすず書房, 2003.5
11. 木田元編『桜桃とキリスト：もう一つの太宰治伝』長部日出雄著 文藝春秋, 2002.3
13. 太田静子著『斜陽日記』小学館, 1998.6 (小学館文庫)
14. 井伏鱒二『太宰治』筑摩書房 1989.11
15. 吉本隆明『吉本隆明「太宰治」を語る』大和書房 1988
16. 『文芸読本 太宰治』河出書房新社 1984
17. 相馬正一編集・評伝『太宰治』新潮社, 1983.9 (新潮社日本文学アルバム 19)
18. 野原一夫『含羞の人：回想の古田晁』文芸春秋, 1982.10
19. 大高勝次郎『太宰治の思い出：弘高・東大時代』たいまつ社, 1982.3.
20. 榎本了『新埼玉文学散歩』上, 下. -- まつやま書房, 1981. -- 2冊
21. The setting sun / by Osamu Dazai ; translated by Donald Keene. -- C.E. Tuttle, 1981
22. 野原一夫『回想太宰治』新潮社, 1980.5
18. 秋山喜久夫『大宮文学散歩』丸岡書店, 1976.8
19. 奥野健男編『恍惚と不安：太宰治 昭和十一年』養神書院, 1966
20. 榎本了『埼玉文学散歩』東松山文学散歩友の会, 1964.5
21. 津島美知子『回想の太宰治』(講談社文芸文庫) 講談社 2008
22. 太宰治『人間失格』(集英社文庫) 集英社 2007
23. 太宰治『人間失格：まんがで読破』イーストプレス 2007
24. 松本侑子『恋の蛍：山崎富栄と太宰治』光文社 2009

<パネル展示>

1. 石川巧『『人間失格』の読者たち』
2. 香山リカ『冷たい人なのに好きになってしまう』より
3. 松本和也『昭和十年前後の太宰治』より
4. 太宰治年譜 (東郷克美『太宰治の手紙』より作成)
5. さいたま市大宮区 (旧大宮市) の写真
6. 太宰関連ホームページ・ブログ紹介
『太宰が住んだ大宮』http://www.geocities.jp/omiya_dazai/index.html
(※本展示にあたり、資料提供、助言をいただきました。)
『太宰治検定』<http://blog.canpan.info/dazaikentei/>
『Book&Cafe フォスフォレッセンス』<http://page.freett.com/phosphorescence/>
『太宰治記念館 斜陽館』
http://www.goshogawara.net.pref.aomori.jp/16_kanko/dazai/syayoukan.html

<大宮と太宰治>



太宰が治療に通った大宮市の『宇治病院』。
死の前日にも訪れた。

大宮の名の由来ともなった『氷川神社』の楼門。
太宰もこの周辺を歩いた。



「人間失格」執筆当時の町並みの面影を残す、大宮製油
合名会社。

『氷川神社』表参道。当時は闇市があり、
太宰は小野沢氏の姪で食事の世話などをし
てくれた藤縄さんと散歩をしたり、映画館
へ行ったりした。



※『太宰が住んだ大宮』 http://www.geocities.jp/omiya_dazai/oshinagaki.html
を参考にさせていただきました。